

## 授業科目

## 保健・医療・福祉専門職教育論

担当教員名 生田 孝至	対象学年	1	対象学科	保健学・健康科学・社会福祉学・医療情報
	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

## 授業の概要

本講では医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、健康運動指導士、社会福祉士など医療機関及び社会福祉施設に従事する専門職間の連携をコーディネートできる人材を育成を目的とする。具体的には、医療機関・社会福祉施設や養成機関（専門学校、大学）における専門職間連携教育における教材（仮想事例）開発の視点から、専門職間連携教育の必要性、方法、課題について論じる。

## 授業の目的

教育の本質を理解し、所属する機関や高等教育機関における専門職間連携の理論と実践を理解する。

## 学習目標

- 1.教育の目的および本質について検討する。
- 2.専門職間連携における連携のコーディネータの役割を検討する。
- 3.専門職間連携を現場や養成機関で検討するための教材を作成し試行する。
- 4.課題や討論に積極的に参加する

## 授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考
1	オリエンテーション	
2	教えるとは何か（1）	「人間は教育されなければならない唯一の非造物」であろうか
3	教えるとは何か（2）	系統的な教授と学習者中心の学習の間で
4	教えるとは何か（3）	客観主義学習観と構成主義学習観
5	教えるとは何か（4）	「教師」は専門職か
6	教えるとは何か（5）	専門職は自ら学ぶ～反省的実践家とは何か
7	教えるとは何か（6）	反省的実践家を支援する
8	求められる専門職像に至るには（1）	I.P.E(Inter Professional Education)とI.P.W.(Inter Professional Work)
9	求められる専門職像に至るには（2）	現場における現状と課題（報告）
10	求められる専門職像に至るには（3）	教材コンセプト、活用法、教材の形成的評価
11	仮想事例の共同開発と評価（1）	アウトラインを持ち寄る
12	仮想事例の共同開発と評価（2）	ノンリニア構造について考える
13	仮想事例の共同開発と評価（3）	多職種からの意見を聞く
14	仮想事例の共同開発と評価（4）	形成的評価の計画を立てる
15	まとめ	

## 使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書						
参考書						
その他の資料						

## 評価方法

課題レポート、発言などから判断する。

## 履修上の留意点

このシラバスは概要であり、詳細は事前に配布するガイドで確認すること。授業の方法として、対面での学修とeラーニングを取り入れる。課題提出や教材の視聴方法等については事前に通知するので、指示に従うこと。

## オフィスアワー・連絡先

この科目についての問い合わせ先：kyoumu@nuhw.ac.jp